

HIF-PH阻害薬の日本国内における共同開発及び販売に関する契約締結について

当社及びJTは、JTが創製し日本国内での臨床開発を実施しているHIF-PH阻害薬「JTZ-951」の腎性貧血を適応症とする経口剤について、日本国内における今後の共同開発及び販売に関する契約を2017年10月26日に締結し、その後国内第Ⅲ相臨床試験を開始しております。

JTZ-951は、低酸素誘導因子-プロリン水酸化酵素含有タンパク質(HIF-PHD)※を阻害することにより低酸素誘導因子(HIF)を安定化し、内因性のエリスロポエチン(EPO)

産生の亢進に加えて鉄代謝分子の発現を制御することで、赤血球の産生を高め、貧血状態を改善することが期待されます。

※HIF-PHDは、細胞への酸素供給が不足状態に陥った際に細胞質中に誘導され、赤血球の造血を促進する代表的な転写因子(HIF)を分解する水酸化酵素のことです。

今後日本国内においては当社及びJTが共同で本剤の開発を行い、販売・プロモーション活動については当社が独占的に行うこととなります。

アレルギー免疫療法薬TO-203(ミティキュア ダニ舌下錠)の小児適応に係る用法・用量の追加承認取得について

当社は、2018年2月16日にアレルギー免疫療法薬TO-203(製品名:ミティキュア ダニ舌下錠)について、小児適応に係る用法・用量の追加承認を取得しました。これにより、12歳未満の小児の患者さんにも使用できるようになりました。

国内で実施した5～17歳の小児室内塵ダニアレルギー性鼻炎患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験において、12歳以

上の患者さんと同様に有効性及び安全性が確認されたことから、2017年3月24日に小児適応に係る用法・用量の追加承認申請を行ってまいりました。

当社は、今回の用法・用量の追加により、小児アレルギー性鼻炎治療の選択肢が広がり、患者さんの治療並びにQOL向上に一層貢献できることを期待しております。

47都道府県 スギ花粉症に対する意識・実態調査

当社は、47都道府県のスギ花粉症患者さん9,300人(各都道府県の15歳～65歳の男女各100人。沖縄のみ男性43人、女性57人)を対象に、スギ花粉症に関する理解と対処の現状についてのインターネット調査を実施しました。スギ花粉症は、日本の国民病と評されており、医療関係者や研究者、企業などによって

スギ花粉症に関する様々な研究、取り組みが行われています。一方で実際にそれらの情報が患者さんに届き、理解されることが必要です。そこで、スギ花粉症患者さんの意識と情報到達の実態を調査し、分析しました。

(調査期間:2017年2月24日～3月6日)

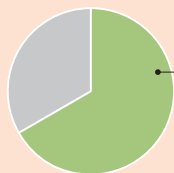
調査結果の詳細は
当社ウェブサイトに掲載しておりますので、
ご覧ください。

http://www.torii.co.jp/release/2017/20170425_1_01.pdf (スギ花粉症に関する意識・実態調査)

http://www.torii.co.jp/release/2017/20170425_1_02.pdf (「スギ花粉症実態調査」参考資料)

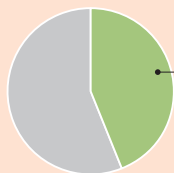
花粉症の現状と生活に及ぼす影響の実態

スギ花粉症を発症してから



多い地域は静岡県、栃木県、群馬県、山梨県等が上位に

重症度について

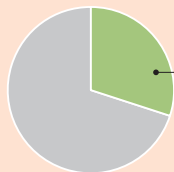


回答トップ3は、新潟県、長野県、秋田県と東日本が並び

- 長年花粉症に悩まされている人が多いという結果に
- 辛い症状では、「鼻水」と「目のかゆみ」が1、2位で患者さんの約90%が辛いと感じている「集中力の低下/眠気」を辛いと感じる人も43.8%を占めるなど、日常生活への影響も

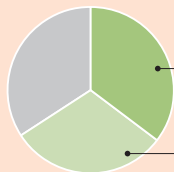
現状の対策と満足度

受診状況



ほぼ毎年、病院・医院で受診している

今までに受診したことがない理由



市販薬(薬局、ドラッグストアで購入できる薬)で対応しているから

35.4%

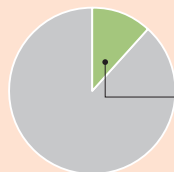
受診しても治らないと思うから

30.5%

- 受けたことがある治療法で最も多いのは「飲み薬」で、67.6%が経験「非常に満足している」と回答した人の割合は、皮下免疫療法や舌下免疫療法等のアレルギー免疫療法で他の治療法と比べ高い結果に
- スギ花粉症の治療や対策で不満に思っていることの1位は「完治しないこと」

治療に対する理解度と情報の到達度

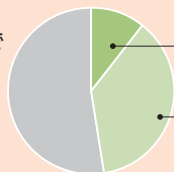
治療法について



対症療法と根治療法の内容まで詳しく知っている

11.9%

舌下免疫療法の説明を聞いて



治療を受けたいと思う

10.8%

治療をやや受けたいと思う

36.9%